

表 1 発音タスク内容

	数	内 容
【課題 1】 単語	24	(例：あたま) おふろ、ふたり、かいしゃ、みず、つまらない、いっぱい、からだ、 たとえば、うるさい、つくえ、たぶん、ちょっと、どうぶ、 きゅうきゅうしゃ、はな、にほんご、ほんや、てんいん、あんしん、 ゆうびんきょく、ねこ、わたし、れいぞうこ、べんきょう
【課題 2】 写真	12	(例：テレビ) バス、タクシー、飛行機、コーヒー、フォーク、電話、信号、雑誌、 時計、卵、辞書、洗濯機
【課題 3】 文 *すべての漢字に ルビをつけた	8	(例：ちょっと来てください) ①昨日の試験は難しかったです。②スポーツの中で何が一番好きですか。 ③忙しくなかったら、ちょっと手伝ってください。④定期券を落として しまったんですが、どうしたらいいのでしょうか。⑤ゆうべは暑くてよく 眠れませんでした。⑥明日はちょっと都合が悪いんですけど。⑦この本、 いつまでに返さなければいけませんか。⑧私も食事はまだだから、一緒 にどうですか。
【課題 4】 文章	1	私はおととい上野動物園へ行きました。朝 9 時に家を出ました。10 時半 ごろ動物園に着きました。色々な動物がいました。あつ、そうそう。有 名なパンダもいました。午後からは動物園の隣の公園を散歩しました。 〔韓日言語日文学会『NETWORK 日本語』より〕
【課題 5】 スピーチ	1	③ 家族について ②趣味について ③今までの旅行の経験について
【課題 6】 自然会話		【課題 5】のスピーチの内容について 2-3 問、担当者の質問に答える。

表 2 言語学習に関するアンケート (A)

●名前・出生国・年齢・国籍・母語
A. 学習歴 ①日本語学習開始年齢 ②学習期間 ③到着年齢 ④日本人と日本語での接触程度 ⑤日本語を学習した機関
B. 日本での滞在期間 ①滞在経験の有無 ②渡日回数 ③滞在期間・目的・到着年齢
C. 学習言語レベル (自己評価) ①日本語全体的なレベル ②発音のレベル ③その他の言語の全体的なレベルと発音レベル
D. 発音学習 ①発音受講経験 ②教師に発音を訂正された程度 ③教師以外の日本人に発音を 訂正された程度 ④発音授業を受けたいか。 ⑤発音は直してもらったら上手に なるか ⑥教師がいなくても発音は上達するか ⑦現在の日本語の発音レベルに どのくらい満足しているか ⑧日本語のレベル全般にどのくらい満足しているか ⑨日本語を話すとき、どの程度上手に発音できているか ⑩母語話者のように話 すことはどの程度重要か ⑪日本人の発音と同じだと思われたいか ⑫発音が悪

いと自分の意図が伝わらないか ⑬いい発音で話せないと恥ずかしいか ⑭発音がいいと、まわりから高く評価されるか ⑮発音が悪くても通じればいいか ⑯発音が悪いと損をするか ⑰発音が悪いと日本人と親しくなりにくい ⑱発音が悪いと日本の社会の一員として受け入れられにくい
E.その他 ①日本人の友達の多さ ②母語話者と接する機会の多さ ③耳がいいと思うか ④歌が上手だ ⑤楽器を演奏するか(楽器名・レベル)

資料3 言語学習に関するアンケート (B)

要因	質問項目
F-1) 発音に対する将来的展望	①将来今より日本人と上手に会話ができるようになると思う ②将来今より日本語の発音がうまくなると思う ③将来今より正確で自然な日本語で話せるようになると思う ④将来今より正確に私の思っていることを日本人に日本語で伝えることができるようになると思う
F-2) 道具的動機	①日本語が話せるようになって日本で働きたい ②日本語を使った仕事につきたい ③日本語が話せると就職に有利である ④日本語は私が自国で仕事をするために必要だと思う
F-3) 発音向上意欲	①日本語の発音が上手になるために努力したい ②現状に満足しないで少しでも正確な発音を目指して努力したい ③発音の授業や発音の指導を増やしてほしい ④日本語学習の中で発音の習得は非常に重要である
F-4) コミュニケーション意欲	①帰国しても日本語の勉強を続けたい ②日本人に日本語で私の思っていることを伝えたい ③日本人と日本語で話がしたい ④日本人といっしょに仕事や勉強がしたい ⑤日本人と友達になりたい
F-5) 統合的動機	①他の国の学習者と日本語で話し合えるような発音を身に付けたい ②帰国しても機会があればまた日本にもどってきて日本語を勉強したい ③日本語の勉強が好きである ④日本語や日本文化に興味がある
F-6) 発音体裁感	①他の学習者や日本人に笑われないような発音で話したい ②日本で生活するためには正確な発音で話す必要がある
F-7) 自己評価型ストラテジー	①うまく発音できているかいつも意識している ②自分の発音の弱点をいつも意識している ③自分の発音をいつも意識して発音している ④アクセントやイントネーションに気をつけて発音する ⑤自分が前よりどのくらい撥音がうまくなったか確認する ⑥教師からの発音のアドバイスや説明を利用する ⑦教師やテープの発音のまねをする ⑧自分で自分の発音に納得するまで自分の発音を修正する ⑨発音の上手な友人がなぜ上手なのか考える
F-8) 目標依存ストラテジー	①発音の目標が達成できたら次の目標を立てて練習する ②教師や友人にどうやって発音するのか教えてもらう ③目標をもって発音を練習している ④発音の教材や参考書を読んだり、利用する ⑤普段気がついたときはいつでも1人で発音の練習をする ⑥少しずつ変化させて発音を修正する ⑦発音の目標が達成できたかどうか確認する ⑧自分の発音が正しいかどうかだれかに聞く
F-9) モデル聴取型ストラテジー	①自分で何度も繰り返し発音する ②LLやテープレコーダーを利用して発音を練習する ③何度もモデル発音を聞いて発音のイメージを覚えて発音する ④自分の発音とモデルの撥音がどちらがうか考える ⑤日本語の教科書を声に出して読む ⑥教師や日本人に自分の発音を直してもらう ⑦平仮名1音1音注意深く発音する

F－10) 口意識型ストラテジー	①教師の口元を見て発音をまねする ②舌や唇など口の中を意識して発音する ③発音練習の時は大きな声ではっきりと発音する ④他の学習者の発音と自分の発音を比較する ⑤教師に発音を直されたら、直される前の発音とは異なった発音をしている
F－11) 他者意識型ストラテジー	①自分が発音している時、自分の発音を聞いている相手の反応を気にする ②下手だと思ったり、まちがったと思ったら言い直して発音する ③日本人や他の学習者からの、自分の発音に対する評価を気にする ④母語と日本語で発音の類似点、相違点を比較する